

Finance NEWS

いまから 20 年前の 1997 年 11 月 17 日

20 年前の 11 月 17 日

この原稿を作成している丁度 20 年前の 1997 年 11 月 17 日は、私が勤務していた銀行が破綻した日でした。

その前日、日曜日の夕方に電話で勤務先の支店に呼び出され、「明日重大発表ある」ので取り付け騒ぎに備えた現金輸送に駆り出され、世間的にはサッカー「ジョホールバルの奇跡」に沸いているのにまんじりとしもしない気分で夜を過ごし、翌早朝テレビのテロップで破綻を知り、7 時に出勤して店頭に貼り出すお詫び文を、大きなポスターの裏面に手書きしたことを思い出します。



20 年、過ぎてしまえば早いものです。

その後に起こった金融事件簿

この 1997 年から翌 98 年にかけてバブル期の不良債権処理が一気に進んで、複数の大手金融機関がやはり破綻や他社救済などの形で姿を消しました。歴史をもう少し見ると、この 10 年前の 1987 年 9 月 15 日、ニューヨークではブラックマンデーと呼ばれる史上最大規模の株価暴落があり、日本では金利引き下げ、大規模金融緩和によりバブル景気の発端となりました。逆に、約 10 年後の 2008 年 9 月 15 日は米国大手投資銀行のひとつ、リーマンブラザーズの破綻に端を発した世界的な景気後退、リーマンショックがありました。

そしてそれから 20 年経ったいま

I 本日 11 月 17 日現在、経済の体温といわれる株価は、世界各国いずれも概ね順調な動きを見せています。

平穏無事に年末を迎えて欲しいところですが、この先も経済はよくも悪くも動き続けます。

直近では地政学上のリスクは非常に大きいですし、米国経済では今度は自動車ローンが第二のサブプライムローンではないかとか、中国のシャドーバンキング問題は全然片付いていないと囁かれているなど、探せば色々とネガティブな要素も沢山出てきます。経済史学者ニール・ファーガソン ハーバード大学教授曰く、「予測できない動きを前に、人々は目先の間違いを直そうともがき、新たな過ちを犯す」

(2013 年 5 月 12 日付日経新聞)



しかし 98 年以降、日本ではそれまで殆ど機能していなかった預金保護施策はより明確な役割と破綻防止制度ができ、ブラックマンデー以降、世

界の株式市場では、サーキットブレーカーという瞬間的な大暴落を防ぐ制度もできました。

リーマンショック以降は過剰なデリバティブ取引に規制がかかりました。など、大きなリスクイベントがあるたびに大きな景気変動が起きないように規制や制度が出来てきています。

「100 年前よりは前に進んでいる」(同上)。

経済アナリスト、経済学者、我々ファイナンシャルプランナーなど専門家と言われていても誰も将来の経済状況を見通せる訳ではありません。

人工知能 AI がいかに発達しても同じです。そんな状況でも我々ファイナンシャルプランナーは常に経済をウォッチし考え学び続け、クライアントのみなさまの財産を守るべく、これからも努力してまいります。